平成２４年度　事業報告書

Ⅰ　概要

平成２４年度は、計量の普及啓発、計量管理の推進、計量の教育・訓練、計量の情報調査・交流、試験・校正及び計量管理受託業務の６事業を中心に事業を実施した。景気後退による事業規模の縮小と会員数の減少傾向が続いているが、やや持ち直しの兆しも見られており、収入金額合計においては昨年度とほぼ同等であった。

計量の普及については、恒例の計量記念日事業の実施及び出版物発行を中心とした一般消費者、企業等への計量思想の普及啓発や計量情報の提供等を行った。また、啓発標語の募集や７年目となる小学生対象の「何でもはかってみようコンテスト」を実施した。

計量管理の推進については、ISO/JIS Q 10012 計測管理規格の普及活用のための調査研究を実施した。

計量の教育・訓練については、計量担当者を対象とした各種講習会や計量士国家試験対策講習会を開催した。

計量士関連では各地区において、リフレッシュ基礎コース、実務コース及び新規の計測管理専門コースの３種類の技術講習会を実施し、計測器校正技術者研修及び計量器コンサルタント資格認定講習会を引き続き開催した。

また、２年目の取り組みとして、中小企業向け測定基礎教育研修を全国各地で実施した。

計量の情報調査・交流については、全国計量士大会及び認定事業者部会全体会議の開催を通して計量関係者の意見交換会や交流会を実施した。

なお、計量協会 100 年記念事業として、記念誌を作成し記念式典を開催した。

日本郵政グループ計量管理受託業務については、平成２４年４月から平成２５年３月までの受託期間、郵便局等のはかりの定期検査、適正計量管理主任指導及び分銅校正等の業務を実施した。また、計量管理講習会の開催及び業務指導計量士制度導入等により受託体制の整備を行った。

試験・校正センターにおいては、力計、一軸試験機、温度計、質量（分銅・おもり）等の校正・検査事業を推進するとともに、JCSS 認定関連業務として、一軸試験機内部監査、現地監査、マネジメントレビュー、校正課員技術講習会及び校正技術部会等を実施した。

Ⅱ　会員の状況（平成２５年３月３１日現在）

種別	２４年度会員数	２３年度会員数	増減
第１種正会員	83	83	0
第２種正会員	98	100	△2
賛助会員	57	57	0
計	238	240	△2

Ⅲ　役員の状況（平成２５年３月３１日現在）

１　役員数

会長　１名、副会長　５名、専務理事　１名、常務理事　２名、理事　２８名、
監事　３名　　　　　計４０名

２　顧問

顧問　３名

Ⅳ　会議

1　協会運営関係

１．１　第１回定時総会　平成２４年５月２２日　　於：グランドヒル市ヶ谷

【議案】

・　平成２３年度事業報告について
・　平成２３年度収支決算について

【報告事項】

・　役付き理事を含む役員の選任について
・　平成２４年度事業計画及び収支予算について
・　その他

１．２　理事会

第１回　平成２４年４月２４日　　於：日本計量会館

・　新役員の選任(確認)及び役付き理事の選任について
・　平成２３年度事業報告について
・　平成２３年度収支決算報告について
・　平成２４年度事業計画の一部修正について
・　平成２４年度予算書の一部修正について
・　会長表彰候補者選考について
・　第１回定時総会次第について
・　その他

第２回　平成２４年１１月８日　　於：メルパルク京都

・　平成２４年度中間事業実施状況と今後の事業について
・　委員会、部会の設置及び委員について
・　平成２５年度の補助事業要望について
・　理事の交代について
・　その他

第３回　平成２５年３月２８日　　於：日本計量会館

・　平成２５年度事業計画（案）について
・　日本計量会館の修繕（案）について
・　平成２５年度収支予算（案）について
・　その他

１．３　監事会　平成２４年４月１７日　　於：日本計量会館

平成２３年度の理事の職務の執行、事業報告及び計算書類等の監査

2　委員会

２．１　総務委員会　平成２５年３月１１日　　於：日本計量会館

・　一般社団法人への移行状況について
・　日本計量会館の修繕について
・　日本計量振興協会の諸規程の改定について
・　平成２５年度の新事業について
・　平成２５年度予算について
・　その他

Ｖ　事業概要

１　計量の普及啓発

１．１　計量記念日関連事業

（１）組織委員会

６月１２日に組織委員会(委員長：宮下　茂 日本計量振興協会会長)を開催し、全国大会の日程、場所、ポスター・広報誌の作成、特別講演及び「何でもはかってみようコンテスト」、「計量啓発標語」等の事業実施方針が決定された。

（２）実行委員会及び何でもはかってみようコンテスト審査委員会

組織委員会の決定を受け、６月２５日に第１回実行委員会(委員長：服部　晉 日本計量振興協会副会長)を開催し、計量啓発全国統一ポスター及び広報誌「計量のひろば」の内容を討議した。また、特別講演の候補案について討議した。

９月２５日に第２回実行委員会を開催し、作成したポスター及び広報誌を確認するとともに「何でもはかってみようコンテスト」応募作品について一次審査を行い、２１作品を優秀作品賞候補等として選定した。７９１点の応募があった「計量啓発標語」については、最優秀作品賞１点、優秀作品賞２点及び佳作１０点を決定した。

１０月１日に開催した何でもはかってみようコンテスト審査委員会において最優秀作品賞１点、優秀作品賞２点、特別賞１点、及び奨励賞１７点を決定した。

（３）計量記念日全国大会

１１月１日、ホテルインターコンチネンタル東京ベイ（東京）において、経済産業省・計量記念日組織委員会が主催し、計量団体の協賛、協力を得て、計量記念日全国大会を開催した。

式典（経済産業省主催）においては、計量関係功労者及び優良適正計量管理事業所に対する経済産業大臣表彰、計量制度運営等貢献者に対する経済産業省産業技術環境局長表彰が行われた。

記念行事(計量記念日組織委員会主催)においては、「何でもはかってみようコンテスト」及び「計量啓発標語」の最優秀作品賞及び優秀作品賞等の発表、大会組織委員長よりの表彰に引き続き「津波から生き延びる」と題し、高橋重雄独立行政法人港湾空港技術研究所理事長の特別講演が行われた。

引き続き、レセプションが行われ、関係者の連携強化が図られた。

（４）全国統一ポスターの作成・配布

実行委員会において、内容、デザインを検討し、計量・計測をより多くの一般消費者等に知っていただけるよう、今人気のある子役タレント本田望結さんをキャラクターに起用し、３万１千枚制作した。関係各所及び当会会員等へ配布した。

（５）「計量のひろば」の作成・配布【財団法人 JKA 補助事業：２/３】

本年度の特集テーマは、「メートル原器の重要文化財指定」について、写真、イラストや表を用いて解説した。また、計量啓発標語の平成２３年度受賞作品を併せて紹介した。５万８９００部作成し、関係各所及び当会会員等へ配布した。

（６）「何でもはかってみようコンテスト」の実施

小学生を対象にした「何でもはかってみようコンテスト」は、経済産業省の後援を受け、都道府県、特定市、地区計量協会及び計量士会等の協力を得て実施した。１１３作品の応

募があり、実行委員会及び審査委員会において、最優秀作品賞１点、優秀作品賞２点、特別賞１点、及び奨励賞１７点を決定し、計量記念日全国大会において表彰した。最優秀作品等は、計量ジャーナルなどに掲載した。

（７）「計量啓発標語」の募集

関係各所を通じて、標語の募集を行ったところ、全国から７９１点の応募があり、実行委員会において、最優秀作品賞１点、優秀作品賞２点及び佳作１０点を決定し、計量記念日全国大会において発表、表彰した。最優秀作品等は、計量ジャーナルなどに掲載した。

１．２　計量普及

（１）当会機関誌の発行

①「計量ジャーナル」

春号、夏号、秋号及び冬号を各々約３，０００部発行し、会員・行政機関・関係団体等に配布した。

②「計測標準と計量管理」

５月号、８月号、11 月号及び２月号を各々約３，０００部発行し、会員・行政機関・関係団体等に配布した。一部は有料で頒布している。

（２）計量士国家試験対策テキスト等の発行

「計量法の概要」（２４年度版）をはじめ、計量士国家試験準備講習会等において使用する「計量士国家試験全問題と解説」等のテキスト１３種類を、編集し、発行した。

本テキストは有料で頒布している。

２　計量管理の推進

２．１　計量標準の推進

（１）計測標準フォーラム

今年度の計測標準フォーラムは、１１月９日に大田区産業プラザ PiO で開催され、当会は、ポスターセッション等に協力・参加した。

２．２　計量管理の推進

（１）計測管理システムの調査研究【財団法人 JKA 補助事業：補助率２/３】

計測管理のグローバル化と計測管理システムの強化は、わが国の製造企業における競争力と安心安全の確保のうえで重要課題の一つとなっている。平成２３年５月に制定された計測管理規格 JIS Q 10012 は、企業内における体系的な計測システムの構築と活用のための有効なツールである。委員会では、同規格を企業内に更なる普及・活用に向け、規格のより分かりやすい説明書等を作成するとともに、同規格の適合認証体制の構築に関する調査研究を行い、「調査研究報告書」及び「説明書」を纏め、企業、団体などへ配布した。

また、10012 規格についての説明会及びヒアリング（意見交換会を含む）を行った。

３　計量の教育・訓練

３．１　計量管理者等教育

（１）第２５回 品質管理推進責任者養成コース

指定製造事業所や ISO 9001 の認定取得事業所の品質管理推進責任者及び予定者を対象に、６月４日から８日まで東京会場（１５名）で開催した。

（２）第８回 ISO/IEC 17025 内部監査員研修講座

校正事業者の内部監査員に必要な、試験所認定制度及び ISO/IEC17025 の概要、内部監査についての逐条の解説、ケーススタディ（グループ演習）などについて、７月１２日、

１３日の両日に東京会場（２１名）で開催した。

３．２　計量担当者教育

（１）第２２回 計量管理技術基礎講座

ISO9000 シリーズで要求されている計量計測分野に従事する要員の教育・訓練に対応する計量管理の概要、トレーサビリティ制度等について、６月２１日、２２日の両日に東京会場（１９名）で開催した。

３．３　計量士の育成

（１）計量士国家試験準備講習会

計量士国家試験の受験予定者を対象に、１０月１６日から１９日まで東京会場（６９名）で、また、１１月１５日から１８日まで大阪会場（９６名）で開催した。

（２）計量士国家試験直前対策講習会

計量士国家試験は、平成２５年３月３日に行われる。本講習会は、直前の平成２５年１月２４日、２５日の両日に大阪会場（６８名）で、また、２月６日～８日に東京会場（６０名）で、合格率をより高めるため開催した。

（３）計量士技術講習会

計量士の力量向上及び業務拡大のための技術講習会（リフレッシュ基礎コース、実務コース及び専門コース）を平成２５年１月及び２月に下表のとおり開催した。

このうち「計測管理専門コース」は、本年度始めて事業化したものである。

なお、リフレッシュ基礎コースは、毎年の計画的な開催から必要に応じて開催する方針に変更したところであるが、本年度新たな「計測管理専門コース」を新設したため受講機会の公平性を期すため実施した。

コース／会場	リフレッシュ基礎コース	実務コース		専門コース
		はかりの校正	分銅校正	計測管理
東京会場 日本計量会館	1月 21日(月)	1月 22日(火)	1月 23日(水)	1月 24日(木) 1月 25日(金)
	受講者　15名	受講者 13名	受講者 15名	受講者 10名
大阪会場 薬業年金会館				2月 7日（木） 2月 8日（金） 受講者 14名

３．４　計測器校正技術者研修講座

平成２５年２月１４日、１５日の両日に東京会場（４７名）で、計測器の校正技術者として必須な基本的知識､技術の習得を目的とした､計量法とトレーサビリティ制度の概要、計量管理・検査・校正の概要、JCSS とトレーサビリティ、ISO/IEC17025、不確かさ（講義及び演習）等について講習会を開催した。

３．５　計量器コンサルタント資格認定研修講習会

平成２５年２月５日に､宮城県（２８名）､平成２５年３月８日に､神奈川県（１２名）､及び新潟県（４０名）において講習会を開催した。

３．６　地域中小企業対象の計量の普及啓発【財団法人 JKA 補助事業：補助率２/３】

・　地域産業における中小企業技術者を対象にした長さ、質量及び温度に関する測定の基礎知識並びに測定器の使い方及び管理方法等に関する教育研修の実施方法を運営委員会

を設置し、検討した。

- 本年度の地区における中小企業向け研修会は、1府 12 県 19 箇所で開催され、参加企業は約４００社、参加者は５００名であった。

４　計量の情報調査・交流

４．１　計量士の交流

（１）　計量士部会運営委員会

４月１６日、７月３日及び１０月３日、運営委員会を開催し部会の運営、計量士技術講習会（リフレッシュ基礎コース、実務コース及び計測管理専門コース）、第 11 回全国計量士大会の開催及び計量士部会運営規程の改定について協議した。

（２）　第１１回全国計量士大会

平成２５年２月２２日（金）、リーガロイヤルホテル京都において第１１回全国計量士大会を開催した。星野経済産業省計量行政室長を始め、１７６名に上る参加者があり大変盛会であった。

メインテーマ「計量士と計量士団体の発展に向けて」（サブテーマ：地区計量士会（部会）の現状と課題）を掲げて、４地区の計量士から事業活動、計量士の状況及び課題等について発表があった。フリーディスカッションでは、参加者から組織運営、地区事業に対する質問、法定計量に留まらない計量管理の進め方、放射線量測定に対する取り組み始め、新たな事業に対する期待から質問、意見、提案が相次いであり、非常に活発な意見交換が行われた。最後に小谷野計量標準技術科長と星野計量行政室長から講評をいただいた。具体的な内容については、「計量ジャーナル（Vol. 33-1　平成２５年４月１５日発行）」に掲載した。

４．２　校正事業者（認定事業者）交流

（１）計測標準フォーラム第１０回講演会

ポスターセッション等に参画した。

（２）企業見学会

２月１８日に日産自動車（株）追浜工場で、電気自動車等の組立・検査ラインや出荷専用埠頭及び計量管理室の見学会を開催し、部会会員ら３１名が参加した。

（３）認定事業者部会運営委員会

２月２６日に運営委員会を開催し、JCSS の動向、計測器校正技術者研修、企業見学会、放射能の標準と信頼性、全体会議等について討議した。

（４）認定事業者部会全体会議

３月２６日に全体会議を開催し、当会の事業実施状況と今後の取り組み、JCSS 等の動向、放射線の標準と信頼性等の講演の後、部会会員３社及び当会試験・校正センターから校正事業の活動事例の発表があった。部会会員ら３０名が参加した。

（５）計測器校正技術者研修の実施継続

計測器の校正技術者育成のための認定研修講座を、東京で開催した。

４．３　国際交流

（１）日本・韓国・中国計量測定協力セミナー

平成２４年度は開催されなかったが、平成２５年度に中国にて開催予定されている。

４．４　計量制度に関する意見交換会

計量課題研究会報告（平成２４年３月２７日 日計振発）に基づき、平成２４年９月

１１日に日本計量会館において、計量行政室と計量士部会運営委員会との計量制度に関する意見交換会を実施した。

５．日本郵政グループ計量管理事業の受託業務の実施

本事業は、平成１６年度の事業開始から９年となる。郵便事業(株)、日本郵政(株)健康管理事務センターの２契約ともに適確に完了した。

５．１　受託業務の内容

（１）受託期間　　平成２４年４月２日（火）～平成２５年３月２９日（金）まで
（日本郵政(株)は、各契約日から平成２５年２月末まで）

（２）主な受託項目

支店、郵便局、及び健康管理センターで使用するはかりの定期検査、適正計量管理主任者の指導、自主検査用分銅の校正及び書類の申請・届出等

５．２　受託業務管理体制の強化

（１）本年度契約では自主検査用分銅の校正周期にあたり校正業務が加わった。報告書類の記入事項の改善、主任指導と管理状況の評価方法と評価区分の明確化、自主検査周期設定方法及び技術情報等について「計量管理業務実施の手引き」、資料類を改訂し受託業務の徹底を期した。

（２）計量管理講習会の開催

受託業務仕様書で、毎年度、「計量士の研修体制確保」が要件とされている。このため、事務処理の変更点を踏まえて業務執行方法等の周知と新規参入の計量士養成の目的で、東京（５月１５日）、大阪（６月７日）、富山（６月１４日）及び仙台（６月２９日）の４会場で講習会を開催した。受講者は、１３０名（新規計量士、補助者含む。）

（３）「業務指導計量士」の委嘱

計量士の高齢化が進み、毎年度、上記（２）の講習会終了後に計量士の退任等がある。新任計量士の迅速な育成のため、平成２２年度から導入した対応策であるが、本年度の追加委嘱は無かった。現在までの委嘱計量士総数は、２１名である。

（４）計量関係事務手続き等

平成２４年１０月、郵便事業(株)と郵便局(株)の統合に係る変更届等、関係事務手続きを行った。また、年間を通して、①住所及び名称等の指定申請書記載事項変更届、②指定事業所廃止届、③新規指定申請、及び支店、郵便局等への入店・入局許可証の交付手続きを行った。

５．３　計量管理受託業務実施結果

項　　　目	日本郵政(株)	郵便事業(株)	郵便局(株)	合　計
Ｉ-1　計量器の定期検査	10	9,276	14,584	23,870
(1)窓口用はかり	-	1,740	14,258	15,998
(2)集荷用はかり	-	7,536	326	7,862
(3)医療用はかり	10	-	-	10
Ｉ-2　計量管理に関する事務				
(1)適正計量管理主任の指導	3	564	10,474	11,041
(2)自主検査用分銅の校正	58	2,655	33,869	36,582

6　試験・校正センター

6．1　検査事業実績

近年の検査事業の件数と収入実績を表にして示す。平成２４年度の各校正項目ごとの収入実績を、表の太線枠内に示し、２３年度の実績と対比してその右に、前年比と並べて示した。試験・校正の件数の比較では、一軸試験機、力計がやや減少、ガラス製温度計も昨年よりは減少したが、一昨年よりも１００件ほど多く、２４年度は平年並みといえる。質量の分銅等は、昨年よりも４００件ほど増加した。

収入実績は、以上の件数の増減を反映しているが、温度計は件数の１２０件減にもかかわらず、収入が増加しているのは、単価の高い JCSS が６５件増加しているためと考えられる。総額の比較では、昨年の 99.2%に達しているので、この３年間安定した収入といえる。

力区分の力計、一軸試験機に年々、少しずつの減少が見られるが、これを食い止めるため、校正課員の地区代表からなる校正技術部会を通して意見交換及び積極的な宣伝をしていきたいと考えている。

		21 年度 件	22 年度 件	23 年度 件	24 年度 件	24 年度 収入実績 (千円)	23 年度 収入実績 (千円)	前年比 (金額) (%)
一軸試験機		1,211 (1,200)	1,132(1,126)	1,123 (1,112)	1,097 (1,086)	36,473	38,198	95.5
力　計		531　(529)	544　(538)	583 (570)	523 (505)	26,197	27,823	94.2
温度計		1,981　(148)	1,954　(133)	2,221 (　94)	2,065 (159)	18,128	17,741	102.2
質量	分銅等	634　(331)	279　(124)	191 (　67)	631 (528)	6,116	3,883	157.5
	はかり	64	74	78	31			
その他		603	513	433	508	1,270	1,219	104.2
合計件数		5,024	4,496	4,629	4,855	88,184	88,864	99.2
収入実績 (千円)		83,814	88,194	88,864				

※　(　　)内数字は JCSS 実績

6．2　検査関連事業の実施状況

6．2．1　JCSS 認定事業関連

（１）　力基準機の特定二次標準器校正

力基準機について、５年に一回の産総研の特定標準器による第一階層校正が、５月２１日～６月８日の日程で実施された。

（２）　技能試験

平成２４年秋の力計の持回り測定の結果は、Ｅｎ値の判定で問題がなく、試験・校正センターの構成が適合していることが示された。

（３）　一軸試験機校正従事者(校正課員)の新人講習会

１１月５～７日兵庫県立工業技術センターに会場と試験機を借りて、新人校正課員６名の参加で講習会を実施した。半年以上のＯＪＴの後、平成２５年度の講習と模擬校正による技能評価の後、教育訓練規定に則り認定される。

（４）　内部監査（現地監査）

一軸試験機の現地校正課員の校正状況を監査することが、当会品質マニュアルの中で要求されている。技術管理者による一軸試験機の現地校正の現場での内部監査については、今年度は富山県及び兵庫県の２県で実施し、問題となる品質システム上の不適合は無く、

適切な校正状態を確認した。

（５） 試験･校正センター内部監査

平成２５年３月４日　委員長 田中克尚氏ほか 委員２名により行われた。特段の不適合及び指摘事項はなかった。

（６）試験･校正センター　マネジメントレビュー

平成２５年３月１９日　河住専務,各部長に対して開催された。品質目標などに関して、安全・安心を項目として掲げることの提案があり、盛り込むこととした。

６．２．２　一軸試験機校正技術部会

一軸試験機校正担当者の技術的な問題の意見交換の場として、平成２４年１０月２５日に岡山市と平成２５年３月２２日に計量会館にて開催した。

６．２．３　外部委員会など

試験・校正センターの業務に関わる力標準、硬さ標準、質量標準等のトレーサビリティ研究会が開催され、また力学量標準のトレーサビリティワークショップが毎年６月に開催されている。これらの委員会に出席し、情報を収集に努めた。

７．その他

７．１　計量協会 100 年記念事業

計量協会 100 年記念式典の開催　平成２４年７月６日　於：東京會舘

・計量協会 100 年記念感謝状の贈呈　対象者 28 名

・記念講演「東京スカイツリーの建設　～世界一への挑戦～」

講師　高木浩志氏　㈱大林組建築本部プロポーサル部

・計量 100 年記念誌の発行

７．２　顕彰事業

（１）１１月１日計量記念日全国大会表彰（受賞者４５名）

（１３ページ「第１回計量功労者表彰受賞者名簿」掲載）

（２）日計振会長推薦の経済産業大臣表彰計量関係功労者受賞者（３名）

・桑山　重光（株)計量技術コンサル事務所代表取締役、東京計量士会 副会長

・檜林　功　　東京計量士会 常任理事

・吉村　良次　大阪計量士会 相談役

（３）日計振会長推薦の産業技術環境局長表彰計量制度運営等貢献者受賞者（６名）

・伊藤嘉明　三重県計量士会 会長

・伊藤佳宏　三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所（愛知県・計量士）

・樫村嚇昭　大阪計量士会 副会長

・黒崎隆雄　エーザイ（株)（埼玉県・計量士）

・津田健司　（株）島津製作所（京都府・計量士）

・西川康弘　一般社団法人 滋賀県計量協会 専務理事

７．３　全国計量器販売事業者連合会事務受託事業

理事会　第１回　平成２４年　４月２５日　於：日本計量会館

　　　　第２回　平成２４年１２月１１日　於：日本計量会館

総　会　平成２４年８月３日　　於：ホテル青森（青森市）